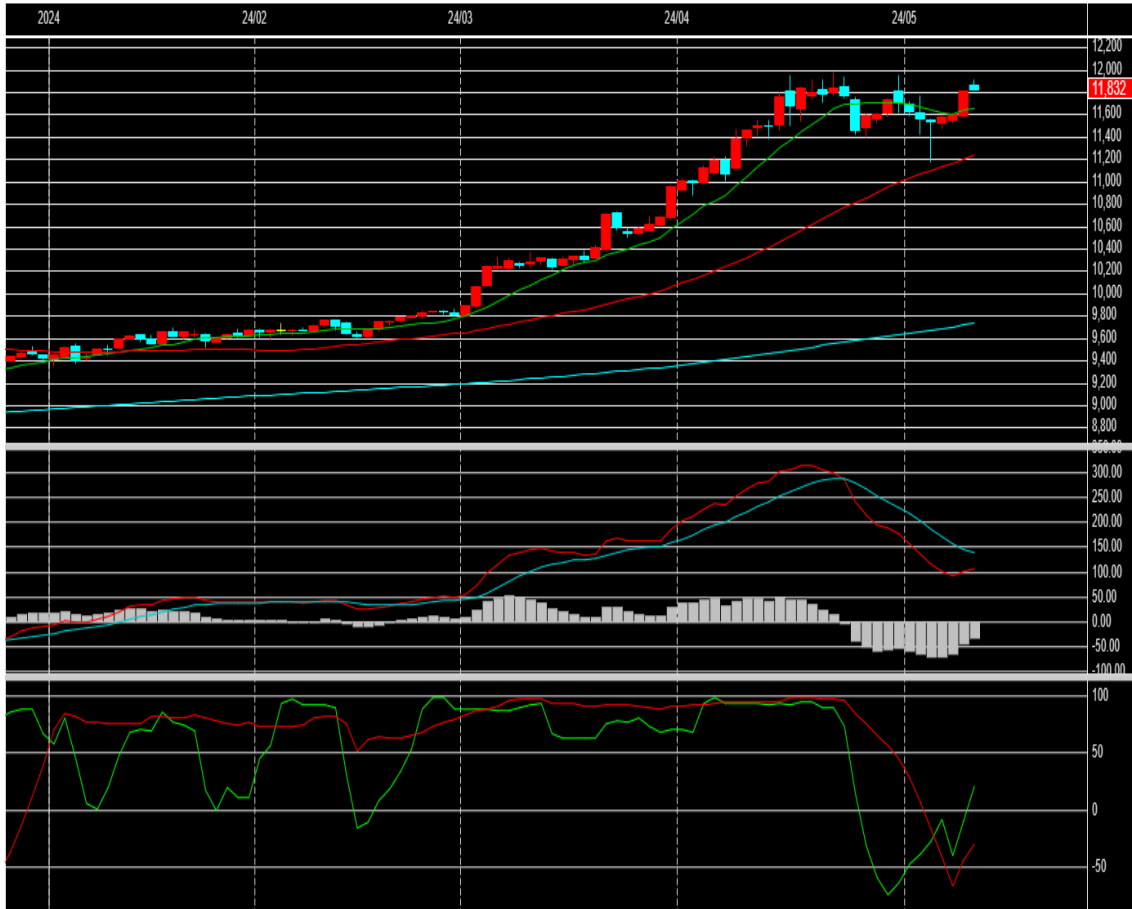


<金標準、上海黄金交易所の取引量の増加などチャイニーズ相場・・・>



(出所：オアシス)

日本市場はゴールデンウィーク、中国も労働節（メーデー）の連休中に財務省が円買い介入を2度行い、雇用統計を受けて円ドルは一時151円まで円高の動きを見せている。そのため金標準先物は、一時11180円まで下値を模索している。しかし中国の労働節が明けて、週間新規失業保険申請件数が23.1万人増と大幅に増加し利下げ観測が高まると、上海黄金交易所（SGE）とロンドンとのプレミアムが4月の需要が高い時期に戻り34ドルで推移している。特に中国政府は杭州と西安市が住宅購入制限撤廃、購入者の資格審査廃止など不動産開発業界に対する支援策を打ち出しており、景気下支えの効果から銅価格など非鉄金属の上昇に結び付くなど、上海先物取引所の金取引量が6割増と増加を示すなど、週末には金標準先物は11919円まで高値を追っている。しかしミシガン大消費者信頼感指数で1年先のインフレ期待が前月の3.2%から3.5%へ上昇するなど根強いインフレ高を示し「より高くより長く」の金融政策を受けて高値が止まった値動きに思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDはMACDが下げ止まり、シグナルは下げている。RCIで短期が上昇し、中期も切り返しているが、10日移動平均線が横ばい状況であり、11640円を挟んだ200円の上下の値動きに推移する可能性は高いと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,445,000 円(2024 年 5 月 13 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 73,920 円(2024 年 5 月 13 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30) 証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター <https://www.nisshokyo.or.jp>